

# しあわせの村 野鳥物語



## ヒナに餌...1日200回

多くの野鳥たちは昆虫等の餌が豊富な春（3 - 5月）に子育てをします。早春にオスは美しい声で「さえずり」始めます（メスを求め、縄張り宣言）。私達の6年間の観察では、シジュウカラは、番（つがい）を形成すると下見して気に入った巣箱でメスが主体でオスは見張り役で巣作りを始めます。巣材は近くにあるスギゴケを土台に、タマゴやヒナが触れる産座には柔らかくて温かい動物の毛や羽毛等を敷き詰め3 - 5日間で見事な巣を完成します。

巣ができるとメスは毎朝1個ずつタマゴを平均7 - 9個産みます（7 - 9日間）。抱卵はばらばらにヒナが孵化しないよう全てのタマゴを産み終わってからメスが約2週間行きます。巣作りと抱卵中は大変神経質になっており、巣の周辺に人間が近づくと巣をタマゴもろとも放棄する恐れがあります。2週間後ヒナが孵化するとオスも加わりヒナへの餌探しと運搬に大忙しで、早朝から夕方

まで、一日200回以上も餌を運び込みます。ヒナに餌を与えた後、ヒナが出したゼリー状の袋に包まれたフンを親鳥が遠方へ捨てに行きます。近くに車や人間がいても100m以上、いない時にも約30m離れた場所へヒナのフンを捨てています。外敵から巣を守る親の愛情の深さを感じます。

それでも何箱かはヘビ等の外敵に襲われ自然界の厳しさを感じます。

さらに約2週間後（巣作りから約40日）ヒナは巣立ち、

しばらくは近くの枝で親鳥から餌をもらいながら採餌方法等を学び、巣立ちから約1か月後独り立ちします。毎年150 - 180羽のシジュウカラやヤマガラスのヒナが巣立ちましたが、ヒナの翌春までの生存率は外敵、餌不足、寒さ等のため10%未満と言われていますが、巣立ち後の生態が未だ詳しくは分かっていません。来春、環境省の許可のもと私達の巣箱のヒナに専門家により足環を装着予定です。（野鳥と自然観察会 茅中英一）



ヒナのフンをくわえるヤマガラス。川上操六さん提供

## 未来館エコスクール盛況



環境未来館では夏休みなどを利用してエコスクールを4回実施。例年以上の参加者でにぎわいました。

7月9日・昆虫調査大作戦 ネットや虫かごを持って家族連れ68人参加。未来館周辺の昆虫の様子を聞いた後、近くの田んぼや明石川に出かけ、トンボ・バッタ・チョウなどを追っかけました。「風が強かったので、あんまり採れへんかった」。子供たちはちょっぴり残念そうでした。

30日・夏休み宿題お助け隊（エネルギー編）地球温暖化やエネルギーについて考え、自由研究のヒントにしてもらおうという企画で242人の申し

込みがあり、抽選で71人が参加しました。紙芝居、未来館の太陽光発電の見学、電気自動車の試乗など楽しいメニューが用意され、中でも太陽電池でモーニングメロディーを作る工作キットが好評で、「鳴った、鳴った」と大喜びでした。

お手伝いは、NPOアースパル神戸の宮本代表ら2人と未来館のスタッフ13人がお手伝いをしました。

8月2日・森永乳業エコクッキング 灘区にある神戸工場とタイアップして開催。100人の定員に700人を超す応募があり、例年どおりの超人気ぶりでした。メニューは、家庭で残った牛乳を使ったチーズ作り 乳清を使ったヨーグルトドリンク 省エネ春巻スティック作りの3点。インストラクターの説明を聞きながら親子で仲良く腕をふるって、試食して、満足そうでした。

28日・宿題お助け隊3R編 夏休み最後の日曜とあって、親子連れ123人が参加。木工・エコおもちゃ・マイバッグ・ペットボトル工作・草木染・有機栽培の6つのブースのほか、昆虫探検ツアーも実施され終日にぎわいました。わの各部会からも40人がかけつけ、汗だくでお手伝いしました。

写真は28日のペットボトル工作（環境未来館）